

原子力規制庁臨時ブリーフィング

- 日時：平成24年11月6日（火）19:00～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：森本次長 他

<本日の報告事項>

- 司会 それでは只今から臨時の会見を開かせて頂きます。

冒頭に次長からご説明がございます。よろしくお願いいたします。

- 森本次長 急なお知らせでお集まり頂きまして申し訳ございません。まずは冒頭、拡散シミュレーションについて再び訂正をしないといけないという事態をお詫び申し上げたいと思います。どうも申し訳ございませんでした。

大変ご迷惑をおかけして申し訳ございません。間違いが見つかりましたのは、九州電力の玄海原子力発電所及び川内原子力発電所に係る風向でございます。内容については、金子防災課長より報告をいたします。

- 金子防災課長 防災課長の金子でございます。お手元にプレスリリースの資料が届いておるかと思えますけれども、誤りの内容は、九州電力の方から頂戴をして JNES（独立行政法人原子力安全基盤機構）が計算をいたしました気象のデータがございますが、これの風向の表記がですね、風上と風下が真反対に表記されていたということで、そのような説明を受けて、風下で表記されているものと捉えて計算をしていたものが、実は本当のデータはですね、風上で表されていたということが分かりましたものでございます。この気象のデータは先日もお話をさせていただきましたけれども、各電力会社が、それぞれの発電所のサイトごとに継続してとっているものを今回のシミュレーションにご提供いただいたということなんですけれども、そちらのデータのですね、表記について誤りがあったということで、今日、九州電力の方から JNES、あるいは私どものほうにも連絡があったものでございます。間違いをもうちょっと詳しく申し上げますと、風向きを表す際にですね、風向と言う言葉が一般的に使われます。これはいわゆる風上の方位を表す言葉ですけれども、もう一つ着目方位という言葉が使われることがございます。これは風下の方向を表す言葉でございます。九州電力から頂いたデータは、この着目方位で表されているというふうに説明を受けてございました。先般シミュレーションの結果について一部訂正をさせていただきましたけれども、その作業をする際にも JNES の方から九州電力さんに確認をさせていただいて、このデータは風下方向で表されているということですねということで、先方からも風下方向での表記です、というお答えをいただいていたのですが、結果的にはそれは実は風上だったということがわかったということでございます。本件、鹿児島県の方から九州電力さんに一番最初に反対になっていないだろうかというご指摘があったというふうに九州電力のほうから聞いております。

それがありまして九州電力の方で確認をしましたら、その風上と風下の表記を気象データの段階で間違えていたということがわかったので、JNES 及び規制庁の方にご連絡をいただいたという経緯でございます。この事案の確認をしまして、夕方ぐらいですけれども関係の自治体、これは県、例えば玄海ですと、佐賀県、長崎県、福岡県が関係になります。それから川内のほうにつきましては鹿児島県、こちらには私どもから直接連絡をして、こういう事案が発生していることと、お詫びの旨もお伝えをいたしました。関係の市町村、それから県も重複してでございますけれども、現地にあります各規制事務所の方から直接にお電話をさせていただいて、状況のご説明とお詫びを申し上げたというような状況になっております。内容の詳細について質問があれば後ほどお受けしたいと思います。私からは以上です。

- 森本次長 委員会に対しましては、本日の午後、情報が入り次第、委員長をはじめ委員全員に報告をいたしました。そして、委員長からは、関係自治体をはじめとした関係者に早急に連絡説明して謝罪するという事について強い指示を受けております。また、次の 2 点について改めて指示を受けました。まず第 1 点でございますが、風向データなどの一次情報を電力会社など外部のみに依存することを見直して、自ら検証できる体制を構築するということが 1 点。第 2 点としまして、改めて今回のシミュレーションの性格や限界を関係者の皆さんにしっかりとお伝えして、地域防災計画の課題に対応し、防災計画の策定に資する、より進化したシミュレーション、この開発に早急に取り組むこと。この 2 つの指示をいただきました。なおこの誤りを訂正し、正しいデータを作る作業を急いでおりますけれども、まだできあがっておりません。訂正版ができた段階で併せて公表すべきというお考えもあるかもしれませんが、誤りがあると判明した以上は、少しでも早く公表して関係の自治体にもご説明すべきと考え、現段階ではまず誤りがあるということだけでも公表することといたしました。訂正版については整い次第、そちらの内容についても改めて説明する機会を作らせていただければというふうに考えております。こちらからは以上でございます。

<質疑応答>

- 司会 それでは只今から皆様のご質問をお受けしたいと思います。ご質問のある方は挙手をしていただき、マイクが届きましたら所属と名前をおっしゃってからご質問をお願いします。それでは、はい。
- 記者 朝日新聞コイケです。2 点教えていただきたいんですけど、1 点はお話を聞くと九電側からの提供時の説明がまず誤りがあったと、風下と風上について何度か確認した時にもそうした説明を受けていたと。一義的には九電の責任であるように聞こえたんですけども、そういう認識でよろしいのでしょうか。
- 金子防災課長 データの誤りの原因という意味ではご指摘のとおりでありますけれども、規制庁の仕事としてさせていただいたものでございますから、関係の自治体あるいは住

民の方々に大変心配、ご不安を与えているということについては、私どもがしっかりご説明をしなければなりませんし、責任があるというふうに考えております。

- 森本次長 委員長が指摘されたように、そういう一次情報について依存しつつ、それを自ら検証できるという体制がないということ、そのこと自体責任があるというふうに考えております。
- 記者 もう 1 点が、整い次第正しい予測図を公表するとされていますけども、だいたい早くていつぐらいを目処か教えてください。
- 金子防災課長 今、鋭意作業をして、同じような形での地図上のプロット等も作業をしているところでございます。再度、間違えるということをおいてはなりませんので、明日中にそれを確認して、明後日ぐらいには皆さんに公表できる運びにしたいというふうに考えております。
- 記者 整い次第明日以降って、明日中ってことはありますか？一応確認ですけど。
- 森本次長 明後日の出来るだけ早い段階で提出するようにさせていただきたいと思えます。

○司会 はい。ソバタニさん

- 記者 産経新聞ソバタニです。これ、風向きが東西南北全部真逆になっているというふうな認識でいいわけですか。
- 金子防災課長 ご指摘のとおりで、180 度逆になっていると全ての方向がという理解で結構でございます。
- 記者 するとそれを当初、発表していただいたやつを真逆に同じ距離だけ伸ばしていけば、その地図になるということですか。
- 金子防災課長 基本的はそのとおりなのですが、前にもちょっと申し上げました欠測値のデータとか、そういうものの取り扱いの方位が若干、ちょっとですけども変わる可能性がありますので、全く 100%同じということではない可能性がございます。100%同じというのは 180 度回せばそのままになるかどうかということについては、もう一度ちゃんと計算をしないとはいけません。
- 記者 ごめんなさい。欠測値の部分が、それがどうなる可能性があるんですか。
- 金子防災課長 欠測値をですね、例えば北から順番に割り振ってまいりますが、割り振ってまいる順番が結局 180 度回すことによって、場所が変わってきますので、それによって若干計算の値が、結果として変わる可能性がございます。ほぼ影響はないと思っておりますけれども、その点はよく検証したいと思います。
- 記者 すると今日の段階では、そのどの自治体が新たに入って入らなくてという話もなかなかできないということですか。
- 金子防災課長 そうですね。それは明後日の段階で公表させていただく時には、きちんと正確なプロットの地点の市町村も含めて、ご提供させていただきます。

○記者 なるほど、報道機関として、いわゆる真逆にした図を勝手って言ったらあれですけど、自分で作って出すものには、さらに間違える可能性があるということですか。逆にいうと。

○金子防災課長 間違えるということまではいかないと思いますけれども、正確ではない可能性があります。例えば何十何 km というような数字があり、それをプロットしていただく時に、前回も欠測値の取り扱いで 0.1 km ぐらいは 0.3 km までですね、変更点がありましたけれども、今回は追加をするデータがあるわけではないので、そこまで大きく変わらないと見込んでおりますけれども、若干変わる可能性がありますので、その正確性は必ずしも十分には確保できないというリスクがございます。

○記者 わかりました。ありがとうございます。

○司会 はい。それでは。

○記者 共同通信ミヤザキです。今の地図の公表の関係なんですけれども、一応明後日ということなんですけど、ほぼ真逆で間違いはない、だいたいそれでよくてですね、細かいところでということであれば前回よりも今回は数少ないですし、もうちょっと早く出せるのではないかなって気もするんですけども、それは単純に技術的に時間的に難しいのか、慎重を期して時間を取りたいということなのか、いかがなのでしょう。

○金子防災課長 シミュレーション作業そのものですね、計算時間とかそういうものは、今晚かければというようなところはございますけれども、実はその後に、地図に落としたり、皆さんにご提供している絵を書く作業が実はございまして、それからさらにプロットの点がどこにあるか確認をし、ということなどを考えますと、あとおっしゃられたように、慎重には慎重を期して、ちゃんと再確認をしっかりと上でお出しするのが筋だというふうに考えておりますので、その意味で明後日を目標にさせていただければと思っているということでございます。そういう状況です。

○記者 ちょっとミスが続いているので、少し従来よりは時間がかかるかなということ？

○金子防災課長 しっかりと検証したいと考えております。

○記者 わかりました。委員長の指示なんですけれども、一次情報に依存しつつ検証できる体制という、これは規制庁自ら一次情報をとるのではなくて、依存するのは変わらないんですか。

○森本次長 まず一次情報を依存する自体ですね、まずリスクがあるわけですけども、考えるべきは全く依存しないで独自の体系を作るのか、それも指示の中に入っていると思いますけれども、仮に一部の情報を外部に依存するとしても、それを自ら検証するという体制の構築は是非とも必要だと、こういうふうにご指示としては受け止めております。

○記者 前回のミスの時には、そうした指示というのは？

○森本次長 包括的に要するに再発防止策、原因究明ということについてしっかりやるよ

うにと指示を受けましたが、今回はさらに詳細に一次データ、特に正直申し上げれば一次データが違っていた時に、どうやって検証するかという非常に大きな課題と思うんですが、その点について、特に指示をいただいたというものです。

○記者 一次データは今回電力側からということなんですけども、それとあと、要するに JNES で解析をして、規制庁が発表をするという、そういう構造自体もこういうミスの原因になっているような気がするんですが、そこについては何か見直されたりとか、検討しているのはあるんですか。

○森本次長 前回の、すいません、ミスの際に原因究明というのは JNES だけに、もちろん長官から JNES に指示を出しましたけれども規制庁内部でもですね、今検証しております。従って規制庁と、それから JNES の連携、あるいは規制庁自身のチェック機能というものも検証の対象になっております。

○記者 将来的に JNES 統合されるという話もありますけれども、その間、JNES と規制庁というふうに分かれてるのが続くんですが、その有効なチェック体制というのは出来るんでしょうか。

○森本次長 正にそこを検証するというのが、正に検証なんですけども、基本はやはりコミュニケーションであるとか、要するに仕事を投げて受け取るだけではなくて、その間に、いかにチェック機能をですね果たすかということだと考えております。その辺を再発防止策の中で入れ込みたいというふうに考えております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 はい。それではニシカワさん。

○記者 朝日新聞ニシカワです。まず経緯のところで、JNES と規制庁に連絡があったのは、いつの時点であったんでしょうか。

○金子防災課長 九州電力さんから JNES へのご説明は、今日の午前 10:30 頃と聞いております。それを受けて JNES から規制庁のほうにもご連絡をいただいて、それがお昼前ぐらいという形でございます。九州電力さんから規制庁にも一度ご連絡があったのですが JNES のほうで伺うからということで、お話は JNES のほうで聞いた形にしております。

○記者 あと鹿児島県から九州電力に指摘があったのは、これはいつになるんでしょうかね。

○金子防災課長 昨日の 5 日の午前 11:00 頃に九電の鹿児島支社に鹿児島県から照会があったというふうに聞いております。

○記者 あと今回九州電力のほうでは、こういった間違いが起きた原因というのはどういふことが原因だというふうに規制庁に対しては説明してるんでしょうか。

○金子防災課長 その原因は、実はまだ九州電力のほうから詳細についてですね、伺える状況になっていないんですけども、今日のリリースの資料の後ろに、九州電力のほうで

プレスリリースをしております。ちょうど同じタイミングでプレスリリースを出していただいていると思いますが、その取り扱いの説明を、解釈を誤って伝えたという事実だけは、まず確認ができているということで、そのお話をされた担当の方といいましょうか、実際にデータの説明をしていただいた方の勘違いと言ったらいいのかわかりませんが、表記についての取り違いがあったということだと思います。

- 記者 この取り違いは今回だけのことなのか、拡散予測のシミュレーション以外にも、なんか波及するというか、影響がでる可能性はあるのでしょうか。
- 金子防災課長 例えばこうしたデータは、原子力発電所ですね、安全規制に関わる許可の資料なんかにも地域の風向きの資料なんかが入っております、それは間違っていないことが、少なくとも川内 3 号機という許可申請されたものについては間違っていなかったということが確認できていますので、今回提供されたデータの中で、九州電力さんのリリースの資料に参照資料として表のついているページが見えていただけると思うんですけども、その中に提供されたデータに風向着目方位というのが四角の真ん中らへんに字が書いてあるのがご覧いただけるとは思いますけども、その着目方位というのが書いてあること自体で取り違いが起きてしまったということだと理解をしております。従って他の所に影響は、今回のデータの提供の形でされているものはないので、ないというふうに思います。
- 記者 あともう 1 点、今回のようなまちがいは他の電力会社とかにもないのか、そういうことについて、その風向き、今回はたまたまというか、風向きが、着目方位が違っていたということですけども、他のデータとかを含めて、こういう勘違いとか、そういったものがないのか、その電力会社に指示を出したりとか、そういうことはしないのか。
- 金子防災課長 これは指示をお出しすると言うよりは、我々の方でこういう取り扱いをしているけど誤りではないかということとはきちんともう一度、徹底検証して確認をするようにいたします。

- 司会 はい、次の方いらっしゃいますか。マツイさん。
- 記者 テレビ朝日マツイです。川内原発の風向きを見ると、NNE と真逆の SSW を比べるとかなり違う傾向が出てはいるんですが、規制庁の職員というか、そういう方で川内原発にいらっしゃる方が何人いらっしゃるんですか。風向き専門の方はいらっしゃらないとはもちろん思うんですが。
- 金子防災課長 今、5 人だったと記憶しております。
- 記者 その方は規制庁になって新しく行った方なのか、それとも保安院時代からずっといらっしゃる方が続いているか、どうですか。
- 金子防災課長 確か変わっていなかったと思います。ちょっと確認をしないと正確な所はわかりません。

○記者 何が言いたいかという、玄海原発は 360 度ひっくりかえってもあまり差がないといえないんですけど、川内原発はかなり違うので、例えばそこに 1 年 2 年と在席なさっていたらこっちの風が年間通して多いとかいうのは、あきらかに感じてもらいたいと思うんですが、そういうことは規制庁側の方から全く出ていないということですよ。今のところ。

○金子防災課長 現在のところ出ておりません。

○記者 それは原子力安全・保安院時代からずっといらっしゃる方ということなんですか。

○金子防災課長 人間としては従来からいる人間がおります。

○記者 確認ですが、風の事に関しては職務には入っていないということなんですか。風向きなどを見ることは規制庁の、その方々の職務に入っていないということなんですか。

○金子防災課長 仕事のミッションとしては与えられておりません。

○記者 入ってないということですね。

○金子防災課長 はい。

○記者 あとは今の話ですと鹿児島県からであって、川内原発で働いている職員からも何もなかったということなんですね。

○金子防災課長 原発で働いている職員というのは電力会社のということですね。はい、それは特段ございませんでした。

○記者 これだけ差があるのに県からしか指示がなかったということが、ちょっと気になったものでその確認ですが、はい分かりました。以上で結構です。

○司会 はい、次の方。

○記者 毎日新聞ナカニシです。ちょっと時期を忘れましたが、2 週間後に規制庁と JNES の担当検証結果を出すということですが、この時期はずれるのでしょうか。

○森本次長 極力ですね、ずらさないようにしたいと思いますけども、本件も含めて報告していただかないと、一言で言えば意味がありませんので、その点は若干延びるかもしれません。

○記者 確認です。予定は来週の予定ですね。それから延びる可能性があるということですね。

○森本次長 そうですね。はい。

○記者 ちょっとミスが続きましたけど、これ以上にもうミスがないかどうか、ちょっと明言していただければと思うんですが。

○森本次長 それも含めてですね、まさに最終的なものを明後日報告させていただく予定ですので、それまでにきちっとやりたいと考えております。

○司会 はい、次の方いらっしゃいますか。一番後ろの方。

○記者 西日本新聞ナガタです。今回、九電のほうから資料を提供してもらってるんです

けども、まちがった資料を提供した九電に対する何か指導とかですね、再発防止を求める考えはありますか。

○森本次長 やっぱり責められるべきはですね、やはりこういう仕事をするにあたって、その一次情報をですね、全て外部に依存していたと。それに対するチェックがですね、規制庁、JNESとして働かなかったという、この点だと思いますので、基本的にはまずそこをですね、きちっとやりたいと考えております。処分とかそういうことではあまり考えておりません。

○司会 はい、次の方いらっしゃいますか。

○記者 朝日新聞コンです。今回の件で、そもそも規制庁がチェックするような機能というのはあったのでしょうか。

○森本次長 先ほど、金子の方からご説明しましたように、一度は確認を九電に対してJNES通じてですけども、やってたわけですけども、十分ではなかったというのは間違いないので、そういう意味でいうと、チェック機能が十分でなかったというのは間違いないところだと考えてます。

○記者 確認というのは、口頭での念押しというか確認しかできなかったということなんでしょうか、現時点では。

○金子防災課長 前回の修正の作業の際には先ほどもご説明したとおりですけども、九州電力さんからいただいている風向きのデータは風下方向を指しているということでもよろしいんですね、という念押しをさしていただいたということで、その意味ではおっしゃったような口頭でのやりとりの確認に留まっていたということではございます。

○記者 今の反省点としては、現時点では一次情報を例えば気象庁なりそういうところからとることもできたのに、それができてなかったという意味での反省なのでしょうか。

○森本次長 いくつかあると思います。つまりデータの突き合わせを含め、あるいは先ほどのような照会をですね、もっと厳密にやるとかいうのもあると思います。結局、データの信憑性を再確認するメカニズムというものを考える必要があるんだろうと思っています。

○記者 すいません、最後になりますが、それは今回がきっかけでそういう思いに至ったのか、もともとそういう電力会社、事業者などからですね、一次情報をもらって、そのままにしている体制を、こう放置してきた形に対しての問題なのか、今回気付いたわけではないと思うんですが、そのあたりどうなんでしょうか。

○森本次長 今回が1つ大きな機会だと思います。ただ規制委員会ができてですね、改めて事業者との関係は緊張関係をもって取り組むべしと、あるいは透明性をもって取り組むべしというのは規制委員会のミッションの1つであります。少し違いますけれども、今度の大飯原発で現地調査をするといったところもですね、1つのそういう考え方の表れだと思います。ただ規制委員会になって、そこをしっかりと認識をして取り組んできた

かという、そこは大いに反省する点があると思っていて、今回のいわば原因究明と再発防止というのは、このシミュレーションに限ることではなくて、多分、規制委員会、あるいは規制庁としてですね、データとか事実の確認とかというものをどのようにやるべきかという、非常に大きな問題提起というか課題として認識していますので、そういう観点で再発防止策を考えたいと思います。

- 司会 よろしいですか。他にございますか。
- 記者 東京新聞オオムラです。そもそも鹿児島県は、なんで違うんじゃないかと気付いたんですか。
- 金子防災課長 理由の詳細までは伺っていないんですけども、その発電所の風向といいましょうか、風向きが分布が違うのではないかとということにお気づきになられたように伺っております。
- 記者 県が把握しているのに九電がわからないっていうのも、九電いっぺん確認されているんですよね。規制委員会から。それもすごく不思議な話だなと思うんですけど、その辺どうなんですかね。
- 金子防災課長 私どもも確認をした時にですね、気付くことができずに、そのまま先ほど申し上げた風下で表されていますということになってしまったのかは、よくお伺いしなければいけないと思いますけども、そこは今後しっかり原因究明と検証していきたいと、そういう項目だと思います。
- 記者 はい、わかりました。

- 司会 はい、他にございますか。
- 記者 フジテレビカトウです。一次情報みたいなものを、例えばなんですかね、風向計を自ら例えば取り付けたりとか16方位ではなくとも、なんかそういう、例えば全国の16の原発にそういう規制委員会として取り付けたり、なんか情報を得るような、そういうことまで考えることはあるんでしょうか。
- 森本次長 必ずしもそこまでは考えておりませんでしたけれども、要はデータのチェック、データというのはいろんな形のデータがあるので、それを常に、一言でいうと当然にあっているものとして考えてですね、対応するんじゃないということが大事だと考えていますので、その根っこからデータをですね、自ら作り出すことになるのかどうかは今後の検討の中で考える必要があると思っています。

- 司会 はい、次の方いらっしゃいますか。
- 記者 共同通信タケオカです。先ほどの委員長指示で、進化したシミュレーションとか自ら検証する体制についてなにか期限を区切ったものがあつたんでしょうか。
- 森本次長 とにかく早急にということで指示をいただいてまして、委員長自身もですね、

今回のシミュレーションというのは一言でいえば 30 km というですね、UPZ（緊急防護措置を準備する区域）を検討するにあたっての 1 つの試みという形だという認識はされています。つまり今まではそういうことはないんだという前提で、こういう拡散シミュレーションが出されなかったわけでございますけども、それを今回やっただ。ただし皆さん方ご承知のとおり、例えば地形情報が入っていないとかですね、いくつかの限界がございます。また自治体の方からもいくつかの注文とか意見とか問題点の指摘とかございます。今回、原子力災害対策指針を作らせていただいて、それに基づいて地域で地域防災計画を作っていただくわけですが、その課題に役立つようなシミュレーションですね、そういうのを早急に作る必要があると。つまり裏返して申し上げれば自治体に役立つような自治体が今後、今年度末にかけて作っていただく防災計画の策定に役立つように早急にやれというふうに言われておりますので、具体的な日取りで言われたわけではありませんが、というスピード感で指示を受けております。

○記者 そうすると新たなシミュレーションも年度内に示すということなんですか。

○森本次長 役立つようなシミュレーションですね、シミュレーションって、たくさんパターンがありうると思いますけれども、今回お示ししているようなシミュレーションだけで留まるのではなくてというふうに指示をうけております。おっしゃるとおり年度内にも出すと言うことであると考えています。

○記者 同じ MACCS2 を使って条件を変えたりした拡散予測をまた年度内にということ。

○森本次長 何を使うかも含めて検討しろというふうに指示を受けています。

○記者 もう 1 点、先ほどの明後日に最終的なものを公表ということなんですけども、前回の訂正の時にも似たようなことをおっしゃっていたような気がするんですが、やっぱりこういうことが続くと規制委員会の出すデータというのが信用できないというのが国民の見方になると思うんですけども、その点について受け止めをお願いします。

○森本次長 はい、全くおっしゃるとおりで、規制庁の出すシミュレーションに対する信頼を著しく損なったというふうに考えています。これ一義的には、実際に作業して頂いた JNES と。それからそれを一緒にやって作業していた、規制庁の責任だと思っておりまして、そこは内心非常に申し訳ないと思って下ります。特に規制委員会の信頼にも関わるものということになってしまったこと、大変規制委員会に対して申し訳なく思っております。

○司会 はい。次の方いらっしゃいますか。

○記者 共同通信サガエです。先ほど、地域に役立つようなシミュレーションを作る必要があるというふうなお話ありましたけれども、そもそもこの時期にですね、こうしたシミュレーションを公表したことについて、これは今でも妥当だとお考えでしょうか。というのは、結果的に、地域に混乱を与えることになって、全く役立ったかどうか分からないわけで、規制委員会が発足して間もないことを考えれば、もう少し後にですね、き

ちっと体制が整ったうえで、こういうシミュレーションを出すというのも、一つの手だったと思いますが、公表時期の妥当性についてはどうお考えですか。

○森本次長 ご指摘の点もあると思います。ただ、このシミュレーションは、保安院の時代、今年の1月にですね、自治体のほうからご要望も頂いて、そして今まで作ったことのない、つまり安全だと、従ってこういう拡散シミュレーションは要らないというところからですね、転換するために必要だろうということで作業してきたものです。で、防災対策指針を作るにあたって、それから地域防災計画を作って頂くにあたって、必要なものの一つだというふうに考えて発表させて頂いたものです。おっしゃるとおり、2度に渡って、こういう訂正を出させて頂いたことが、非常に自治体に混乱と不安をもたらしたこと、大変申し訳ないと思っています。しっかりと説明をしていきたいというふうに思っています。また、先ほど申し上げましたように、このシミュレーションで終わりではありませんので、その点についてもしっかりと説明をして、理解を得ていきたいと思っております。

○司会 はい。よろしいですか。それでは。

○記者 南日本新聞サガワです。一次情報の中に虚偽がないかどうか調べるのは、大きな課題だということですが、現時点で、何かそれを検証するというか、チェックする案というのはお持ちでしょうか。

○森本次長 その点については、まだ指示を受けたばかりですので。今まで、先ほど金子から申し上げたように、全く検証してなかったわけじゃないんですけれども、ただ、十分でなかったというのは、これはまた間違いない話なので、もっとしっかりした仕組みを作るというのは、これからの検討課題でございます。

○記者 すいません、地元の自治体のほう、今後外れる自治体もあるし、新しく入る自治体があるかもしれませんけども、この辺の説明はどのような日程で、どういう形で行われるでしょうか。

○金子防災課長 今回の九州の2カ所について、具体的な日程が決まっているわけではないんですけれども、先ほどご説明でも申し上げましたように、各現地の事務所から、既に前回までのシミュレーションで、区域がかかっているようなところには、直接状況をご説明してということでご連絡をさせていただきます。今後、おそらくご地元からも、そういう我々からご説明する機会を作るようにというご要請もあろうかと思っておりますので、日程については、スケジュール相談させて頂いて、順次、柔軟に対応させて頂きたいと思っております。

○記者 現地に行くということですか。

○金子防災課長 はい、そのつもりでおります。

○司会 よろしいですか。はい。それではどうぞ。

- 記者 南日本新聞カドタです。何故今回だけ、九電がデータを間違っただけという点で、今までの川内 3 号基の許可申請の時は間違っていなかったっておっしゃんですけど、そう言い切れるのは何故なのかということと、何故今回間違っただけなのかという点のご説明をもう一言お願いしたいんですけど。さっきのご説明でいまいち分からなかったの
- 金子防災課長 まさに何故かという原因のところは、まだ私どもも十分把握できていないのですけれども、先ほど申し上げたように、九州電力のほうでプレスリリースをしている、あの表のあるページがありますけれども、そこに風向という言葉と、(着目方位) っていうのが記載されたかたちで、データが提供されておまして、これが九州電力さんの関係者の方が取り違えることのきっかけになってしまったのではないかというふうには見ております。
- 記者 3 号基とかの許可申請の時は、こういう着目方位とか風向という表記は無いということ？
- 金子防災課長 許可申請の場合は、このデータそのものではなくて、例えば風向の配分の図でありますとか、そういったかたちで書類がもう既に作られておまして、その元のデータというのを、別に提供受けてるわけではございません。
- 記者 それとあと一つ、ごめんなさい。少なくとも規制庁の責任って、さっきからおっしゃられますが、それは確かにそうなんです、地元で混乱と不安を与えたということについて、九電側から、佐賀県なり鹿児島県に、説明なり、謝罪なりとかは既にあったんでしょうか。
- 金子防災課長 ちょっとこの時点で具体的にどういう対応をしていらっしゃるか、私ども詳細を聞いておりませんが、各支店のほうからですね、ご地元にご説明をされる予定だというふうには伺っております。
- 記者 なんか九電側として会見とかの予定はありますか。
- 金子防災課長 プレスリリースを出されるというのはお聞きしましたが、それを会見のかたちですというふうには、ちょっと伺っておりませんでした。
- 記者 今日この場には、九電の方はいらっしゃってないんでしょうか。
- 金子防災課長 はい。
- 記者 わかりました。ありがとうございました。
- 司会 はい。他にございますか。
- 記者 新潟日報マエダです。金子課長にお伺いしたいんですけども、明日、長岡市を訪れることになっていると思うんですが、今回こういった訂正が出たことで、いろいろ作業が大変になってくると思うんですが、予定日程は変わらないんでしょうか。
- 金子防災課長 はい。新潟の関係者には前回も大変ご迷惑をかけておりますので、予定変更せずに、明日、それから明後日、市町村への説明会と、長岡市、魚沼市に参上する

予定しております。

○記者 その中では、今回のこのケースについても説明する…

○金子防災課長 もちろん今回の件についても、ご説明させていただきます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 はい。他にございますか。

○記者 読売新聞フナコシです。金子課長に確認で、着目方位を他に出してきた電力会社っていうのはあるんですかね。

○金子防災課長 こうした表記の形なりで、お出しになられたところは他にはございません。

○記者 九電のみが。他は全部風上の方位のみの…

○金子防災課長 はい、いわゆる風向というかたちでデータを頂いております。

○記者 ごめんなさい。もう一回、じゃあなんで九電は、この着目方位で出してきたんですか。

○金子防災課長 それはまさに原因究明の一つだと思って下りまして。

○記者 要するに書式として、どういうふうに出して頂きたいというふうに求めたんですかね。

○金子防災課長 統一書式ではございませんので、それぞれがお持ちになってるデータを、ある意味ボランティアなご協力を頂いてるケースですので、それを頂いてるということです。

○記者 要するに風向についてこう、とかではなくて、風向ってことだけ枠があったって、そういうことなんですかね。

○金子防災課長 ですから、風向き、風向とですね、風速と、大気安定度と、ここに書いてありますけども、そういったものをデータとして頂戴したいということをお願いをしているものです。

○記者 そしたら何故か着目方位というかたちで出てきたってということなんですか。

○金子防災課長 はい、それでこれは風下の方向で表されているのだと、皆さん関係者は思ってしまったと、そういうことですね。

○司会 他にございますか。それでは、後ろの方。

○記者 朝日新聞コンです。先ほどデータを貰う時にですね、統一のフォーマットでお願いせず、そのそれぞれの電力会社のやり方で出されたってことなんですよ。

○金子防災課長 はい、その通りです。ですから前回の我々の作業での方位の取り違えも、そのようなことも一つの要因になって起きているということで、各社あるいはサイトごとにですね、表現の仕方とか、データの整理の仕方が違うものが実際にございます。

○記者 普通に考えると、そういうやり方すると非常に間違いの可能性が高くなる気はす

るんですが、バラバラのデータが出てくると。じゃもともと統一フォーマットで、提供を求めなかったってことにも反省があるという？

○金子防災課長 それは反省材料の一つだと考えております。

○記者 わかりました。

○司会 他にございますか。はい。カワイさん。

○記者 日経新聞カワイです。九電側からの提供された気象データは、これは紙で提供されたものは、これは間違っていなかったんでしょうか。書いてあるデータ自体は間違っていなかったんでしょうか。

○金子防災課長 その点は間違っていないというふうに聞いておりますけれども、一つ一つをまだチェック出来ている段階ではありませんので、本当に小さなミスがあるかどうかについては、まだ検証が必要だとは思いますが。

○記者 紙では間違っていなかったけど、口頭で説明する際に、先方が間違っていたってことですか。

○JNES 佐藤理事 ちょっと説明致しますと、この資料の一番最後のページに、私ども頂いた資料が、この資料、頂いた資料でございます。ここに風向というかたちで着目方位と書いたデータがありまして、この着目方位と言いますのは、私どもの関係の中では、影響のある方向、いわゆる風下方向を表すというふうに解釈致します。従ってここに出てきている、その風向、着目方位というふうに出てくれば、これは S の方向が風下で、それを 1 番にすると。こういうふうに解釈して、データ入力を行ったということでございます。そこが実質的には、これ着目方位と書いてあるものの、風上方向のデータであったというのが、今回の間違いの原因でございます。

○記者 じゃこの紙のデータも間違っていた？

○JNES 佐藤理事 私どもは、ここに書いてありますように、着目方位と書かれるのは間違いではないかというふうに考えております。

○記者 あと、先ほど記者会見した九州電力の方の説明では、規制庁側から電話で問い合わせがあった時に、取り違えて説明したと言ってるんですけども、それはそれで正しいですね。電話で確認して、その時に九州電力側が間違えて説明をしたという理解でよろしいんでしょうか。

○JNES 佐藤理事 私どもの方が、ここに着目方位と書いてありますが、これは風下方向ですか、という確認をして、そうです、という返事を貰ったので、私どもはそれで整理をしたということで、我々が確認したというのは、そういうところでございます。

○司会 はい。他にございますか。なければ以上で会見を終わりたいと思います。